

農と食産業の“時々刻々”

八代産い草の敗因

新しい歴史が始まる。夜明けを前に、すでに万全の身支度を済ませている者、覚悟の朝に今跳ね起きようとしている者、目を覚ましながらも名残惜し気に布団の温もりから脱することのできぬ者、そして、いまだ情眠をむさぼり続ける者。改めるに遅いということは無い。さあ起きだそう。奮い立とう。

わが国の産業と農業そして日本人が、避けられぬ選択としてグローバルスタンダードを認めつつも、誇りある地位を保ち続けるために、土門剛氏に既に決せられた改革の方向性の中で、2001年の“時々刻々”をレポートしていただく。

どもん たけし／1947年大阪市生まれ。早稲田大学大学院法学研究科中退。農業や農協問題について規制緩和と国際化の視点からの論文を多数執筆している。主な著書に、「農協が倒産する日」(東洋経済新報社)、「穀物メジャー」(共著/家の光協会)、「東京をどうする、日本をどうする」(通産省八幡和男氏と共に講談社)、「新食糧法で日本のお米はこう変わる」(東洋経済新報社)などがある。大阪府米穀小売商業組合、「明日の米穀店を考える研究会」各委員を歴任。会員制のFAX情報誌も発行している。



農業評論家

土門 剛

「あの時、織機を潰しておけば、ここまで中国にやられることはなかつたのに」

こう悔やむのは、知人でもある熊本・八代市議の山田栄一さん。い草を畳表に加工する際に使用する染料を商っていた経験があり、この地の産地事情に精通しておられるのだ。あの時とは、平成7年当時のことである。ちょうど中国産畳表が日本市場に怒濤のように入り始まる2年ぐらいい前のことだった。

その年の9月定例市議会(9月12日)で、山田さんはこんな質問をしている。

「八代郡の、大川の、柳川のですね、織機が、乾燥がまが、全部中古のやつが中国に渡つておるちゅうことですか、地金で。だから、行政がスクランプ化するという、そういう運動を始めてもらいたいわけですね。それにお金をつき込んでもらいたいと。中国には絶対にやつちやならぬ。何でかちゅうならば、織機1基が日本で150万円します。中国じゅいくらですか。1基1500万円です。1基400枚しか打ちません。中国は時間外労働しますから、600枚打つこともできます。そういうことを考えまして、日本から絶対に中国

に、この織機など、農家がやめられたときはすぐ農協も行政もいろんな形で、(使わなくなつた)織機に對しお金をつけてやる」

山田さんが質問で触れた、「八代郡、大川、柳川」、この地名はすべて熊本と福岡のい草産地のことである。中国で織機が「1基150万円」と表現したのは、中国の人民元や物価水準を考えると、日本の10倍ぐらいの値打ちがあつて、中国人には到底手が出せない金額であるといふことを表現したかったようだ。

山田さんの提案に市側はどう対応したか。当時の議事録を読むと、市长は答弁に立たず、代わりに答弁した産業振興部長も、何も答えてこなかつた。市长も部長も、中古の織機が二束三文の価格で中国に渡れば、やがてメード・イン・チャイナの畳表がブーメランのよう日に日本市場に戻つてくると考えなかつたのだろうか。想像力の貧困とは恐ろしいことだ。

最近のい草農家は昔と違つて畳表まで加工するようになつた。当時、八代市郡には、1294戸のい草農家が、3954基の織機を所有していた。市役所が調べた数字である。山田さんが問題とした時点では、9戸ほどが新品の織機や染色機など

機械装置に更新した。その翌年は92基が更新された。

問題は不要となつた中古の機械装置の扱いである。ゴミとして出せば産廃業者へ処理費として数万円払わねばならぬ。織機を売り込みにきた業者に引き取つてもらえば2、3万円の小遣い錢が入つてくる。い草農家は後者を選択したのだ。むろんその業者は、中国のい草農家へ乾燥釜や染色機のワンセットにして100万円以上で売り払つたというのである。

「残念ですよ。あのとき市長が中古織機の買い上げに音頭をとつておればですよ、いまごろ政府が畠表でセーフガードを発動することもなかつたと思いますね。い草農家がこれほど借金で苦しむこともなかつたですよ。ホント、ものが見えどらんことは恐ろしいことですね」

わが政府がセーフガード暫定措置を発動した直後に、山田さんが漏らした感想である。

「ものが見えどらん」のは市の幹部だけではない。農水省の役人もそうだ。山田さんの問題意識をその時点できみでできず何の対策も打てなかつたのはお粗末と言われても仕方がない。

経済産業省（旧通産省）の織維行

政は違つた。昭和40年代のこと、不況に見舞われていた織維産業に、過

継がせるため高級乗用車をあてがつてやつたこともあつた。これまた借金だつた。

それに比べて設備資金はそれほどではなかつた。い草から畠表へ加工機1基につき5000円で買い上げ体に働きかけ、補助金をつけて紡織チャンと壊すシーンを見た記憶があるだろう。そのことだ。織機を潰さずに処分すると、国内の不心得者がこつそり使つてみたり、あるいは東南アジアなどに売り飛ばしてしまうのを防ぐためだつだ。

▽身から出た鎌の借金苦

中国産に6割のシェアを奪われてしまつた畠表。冷静に敗因分析をすれば主産地である八代のい草農家が自ら墓穴を掘つたともいえなくもなり。自宅を建てるにも、い草から畠表へ加工する機械装置などにも、すべて身の程を過ぎた借金で賄つた。これが致命傷となつたのだ。

その借金はハンパではない。目立つのが自家の建設資金だ。坪から100坪の建坪で、30000万円から40000万円はかけた。建設単価も、隣が坪30万円なら、こつちは35万円だ、農家同士が見栄を張り合つてのものだつた。家を新築すると墓も造ることを忘れてはならない。

運転手に決まつて聞くことがある。「自殺者はどれぐらい増えたかね」死者には非常に不謹慎とは思いつつ、ついこの質問をしてしまう。それがくらい八代のい草農家の疲弊ぶりは筆舌に尽くし難いものがある。

中国産畠表の輸入が始まつて5、6年。この間に借金苦によるい草農家の自殺者は50人とも囁かれているが、真偽のほどは誰も分からぬ。これには事情があるので、知人の農家がこつそりとこんなことを教えてくれた。

八代産の畠表。マーケットでは中級品以下の扱いだ。価格がすべてを物語る。い草農家が、畠表に加工して流通業者に渡す価格は1枚100円程度。3年ほど前は1500円だった。2、3年で3割は下落したことになる。

い草の平均耕作面積は1・5ヘクタール。10アール400枚から50枚作る。かりに500枚作つたとして10アール50万円だ。それに面積をかけると粗収入は750万円。経費率はだいたい50%。農家の手取りは400万円弱だ。これだけなら生活できないこともないが、家の新築や車の購入のためのローン返済があることを忘れてはならない。

ここ数年、縁があつて八代に足を踏み入れるチャンスが何回かあつた。JR八代駅でタクシーを拾うと、運転手に決まつて聞くことがある。「自殺者はどれぐらい増えたかね」死者には非常に不謹慎とは思いつつ、ついこの質問をしてしまう。それがくらい八代のい草農家の疲弊ぶりは筆舌に尽くし難いものがある。

中国産畠表の輸入が始まつて5、6年。この間に借金苦によるい草農家の自殺者は50人とも囁かれているが、真偽のほどは誰も分からぬ。これには事情があるので、知人の農家がこつそりとこんなことを教えてくれた。

「多くは病死扱いなんですよ」これもひどい話である。病死扱いにしてしまえば、世間体を取り繕うことはできるが、問題の真相は絶対に浮かび上がつてこない。

それはさておいて本当の自殺者数はどうか。山田さんに聞いてみたら、「20人から30人の間」ということではないでしょうか。でも最近は自殺者は少なくなりました。い草の値段が戻つて農家の経営が好転したからではありません。自己破産する方法をわざわざえたのが夜逃げですね。もう100人以上は出たでしようか」と

農と食産業の “時々刻々”

いう返事が戻ってきた。これは中国産畠表の輸入が本格化した5年ほどの間のことだ。八代の親しい友人は、「多くの農家は平均して2000万円の固定負債を抱える」と、こう説明してくれた。

「い草農家が設備投資で借金苦に陥つたのは、中国産畠表の輸入急増で価格が暴落したことは引き金で、とてもバブリーな生活にこそ原因があるんですよ。い草農家が身の丈に合った生活をしておれば、たとえい草価格が半値になつても、自殺者が30人とか40人とかいわれるような悲惨な事態は起きなかつたと思いますね」

八代のい草産地は商品戦略でも致命的な失敗を犯していた。中国産を追撃する路線を最初からとつたことだ。質の面で中国産を見くびついたのかもしれない。ともかく量で勝負をかけたのだ。品質向上への努力はぬかつた。

その八代産畠表に、マーケットは中級品以下の評価を下した。八代の名誉のためにも申し添えておくが、八代産すべてが「中級品以下」ではない。高級品の代名詞とされる「備後表」に比肩できる高品質の畠表を作っているい草農家も何人かはある。

その「備後表」を作り出す岡山、広島の両老舗産地。八代に主産地の座を譲つた後の動向が興味深い。脇親しい友人は、「多くの農家は平均して2000万円の固定負債を抱える」と、こう説明してくれた。

「い草農家が設備投資で借金苦に陥つたのは、中国産畠表の輸入急増で価格が暴落したことは引き金で、とてもバブリーな生活にこそ原因があるんですよ。い草農家が身の丈に合った生活をしておれば、たとえい草価格が半値になつても、自殺者が30人とか40人とかいわれるような悲惨な事態は起きなかつたと思いますね」

「備後表」と呼ばれる広島県福山市周辺の畠表。農家の経営規模は50アールから70アール。八代の20分の1以下しかない。八代産の3倍以上の価格で取り引きされる。一枚3500円ぐらいにならうか。

「備後表」のい草農家は、10アール500枚作つたとして、その値段で売れば、10アール当たり175万円の粗収入がある。経費を引けば90万円近くになる。50アールでも400万円以上の手取りになる。小面積故、設備投資も少ない。両産地をよく知る畠表を扱う業者は、八代のい草農民にこんな印象を語っていた。

「彼らは誤解していましたね。強いということは、産地が大きいとか、生産規模が大きいと思つてゐるのでしよう。強いということは、消費者が求めめるものをできるだけコストを安く、品質よく作れるかどうかという

ワードで検索すれば、「備後表」扱う業者のホームページがいくつか目についた。広島県蘭製品商業協同組合のホームページには、「今では、備後地方の蘭草の生産量が減少（現在増反に努めています）しているため畠表を生産するための必要量に不足する状態です」、熊本県産・高知県産を中心に蘭草を移入して生産している備後畠表もあります」という記述があつた。八代地区は、市役所のホームページに申し訳程度の产地紹介があつた。この差が「備後表」と八代産の今日を如実に物語つているようだ。

もう中国は眠れる獅子ではない。捕らまえてみればわが子なり。いまや何でも作れる国になつてしまつたのだ。日本人にはこの認識が欠けるのではなかろうか。これからは中国という国をもつと真剣に見据え、それでもつと中国人とともにアーム・マネージャにスカウトすることだつて実際にあるのだ。

もう中国は眠れる獅子ではない。いまや何でも作れる国になつてしまつたのだ。日本人にはこの認識が欠けるのではなかろうか。これからは中国という国をもつと真剣に見据え、それでもつと中国人とともにアーム・マネージャにスカウトすることだつて実際にあるのだ。

研修生なる名目で中国人労働者を雇い入れる外国人就労プログラムも、考えようによれば、敵に塩を送るようなものではないか。あれは単純労働者で十分なのだ。何よりも賃金が安い。それに技術を盗まれる心配もない。優秀な研修生に日本人が目をつけ、日本向け野菜産地のフアーム・マネージャにスカウトすることだつて実際にあるのだ。

セツカク培つた栽培技術を惜しげもなくタダで与えてしまつたことである。「中日友好、乾杯！」で、どれだけ技術やタネが中国の大地に根付いたことか。

その「備後表」を作り出す岡山、広島の両老舗産地。八代に主産地の座を譲つた後の動向が興味深い。脇親しい友人は、「多くの農家は平均して2000万円の固定負債を抱える」と、こう説明してくれた。

「い草農家が設備投資で借金苦に陥つたのは、中国産畠表の輸入急増で価格が暴落したことは引き金で、とてもバブリーな生活にこそ原因があるんですよ。い草農家が身の丈に合った生活をしておれば、たとえい草価格が半値になつても、自殺者が30人とか40人とかいわれるような悲惨な事態は起きなかつたと思いますね」

「備後表」と呼ばれる広島県福山市周辺の畠表。農家の経営規模は50アールから70アール。八代の20分の1以下しかない。八代産の3倍以上の価格で取り引きされる。一枚3500円ぐらいにならうか。

「備後表」のい草農家は、10アール500枚作つたとして、その値段で売れば、10アール当たり175万円の粗収入がある。経費を引けば90万円近くになる。50アールでも400万円以上の手取りになる。小面積故、設備投資も少ない。両産地をよく知る畠表を扱う業者は、八代のい草農民にこんな印象を語っていた。

「彼らは誤解していましたね。強い

ワードで検索すれば、「備後表」扱う業者のホームページがいくつか目についた。広島県蘭製品商業協同組合のホームページには、「今では、備後地方の蘭草の生産量が減少（現在増反に努めています）しているため畠表を生産するための必要量に不足する状態です」、熊本県産・高知県産を中心に蘭草を移入して生産している備後畠表もあります」という記述があつた。八代地区は、市役所のホームページに申し訳程度の产地紹介があつた。この差が「備後表」と八代産の今日を如実に物語つているようだ。

もう中国は眠れる獅子ではない。捕らまえてみればわが子なり。いまや何でも作れる国になつてしまつたのだ。日本人にはこの認識が欠けるのではなかろうか。これからは中国という国をもつと真剣に見据え、それでもつと中国人とともにアーム・マネージャにスカウトすることだつて実際にあるのだ。

研修生なる名目で中国人労働者を雇い入れる外国人就労プログラムも、考えようによれば、敵に塩を送るようなものではないか。あれは単純労働者で十分なのだ。何よりも賃金が安い。それに技術を盗まれる心配もない。優秀な研修生に日本人が目をつけ、日本向け野菜産地のフアーム・マネージャにスカウトすることだつて実際にあるのだ。

セツカク培つた栽培技術を惜しげもなくタダで与えてしまつたことである。「中日友好、乾杯！」で、どれだけ技術やタネが中国の大地に根付いたことか。

その「備後表」を作り出す岡山、広島の両老舗産地。八代に主産地の座を譲つた後の動向が興味深い。脇親しい友人は、「多くの農家は平均して2000万円の固定負債を抱える」と、こう説明してくれた。

「い草農家が設備投資で借金苦に陥つたのは、中国産畠表の輸入急増で価格が暴落したことは引き金で、とてもバブリーな生活にこそ原因があるんですよ。い草農家が身の丈に合った生活をしておれば、たとえい草価格が半値になつても、自殺者が30人とか40人とかいわれるような悲惨な事態は起きなかつたと思いますね」

「備後表」と呼ばれる広島県福山市周辺の畠表。農家の経営規模は50アールから70アール。八代の20分の1以下しかない。八代産の3倍以上の価格で取り引きされる。一枚3500円ぐらいにならうか。

「備後表」のい草農家は、10アール500枚作つたとして、その値段で売れば、10アール当たり175万円の粗収入がある。経費を引けば90万円近くになる。50アールでも400万円以上の手取りになる。小面積故、設備投資も少ない。両産地をよく知る畠表を扱う業者は、八代のい草農民にこんな印象を語っていた。

「彼らは誤解していましたね。強い

ワードで検索すれば、「備後表」扱う業者のホームページがいくつか目についた。広島県蘭製品商業協同組合のホームページには、「今では、備後地方の蘭草の生産量が減少（現在増反に努めています）しているため畠表を生産するための必要量に不足する状態です」、熊本県産・高知県産を中心に蘭草を移入して生産している備後畠表もあります」という記述があつた。八代地区は、市役所のホームページに申し訳程度の产地紹介があつた。この差が「備後表」と八代産の今日を如実に物語つているようだ。

もう中国は眠れる獅子ではない。捕らまえてみればわが子なり。いまや何でも作れる国になつてしまつたのだ。日本人にはこの認識が欠けるのではなかろうか。これからは中国という国をもつと真剣に見据え、それでもつと中国人とともにアーム・マネージャにスカウトすることだつて実際にあるのだ。

研修生なる名目で中国人労働者を雇い入れる外国人就労プログラムも、考えようによれば、敵に塩を送るようなものではないか。あれは単純労働者で十分なのだ。何よりも賃金が安い。それに技術を盗まれる心配もない。優秀な研修生に日本人が目をつけ、日本向け野菜産地のフアーム・マネージャにスカウトすることだつて実際にあるのだ。

セツカク培つた栽培技術を惜しげもなくタダで与えてしまつたことである。「中日友好、乾杯！」で、どれだけ技術やタネが中国の大地に根付いたことか。

その「備後表」を作り出す岡山、広島の両老舗産地。八代に主産地の座を譲つた後の動向が興味深い。脇親しい友人は、「多くの農家は平均して2000万円の固定負債を抱える」と、こう説明してくれた。

「い草農家が設備投資で借金苦に陥つたのは、中国産畠表の輸入急増で価格が暴落したことは引き金で、とてもバブリーな生活にこそ原因があるんですよ。い草農家が身の丈に合った生活をしておれば、たとえい草価格が半値になつても、自殺者が30人とか40人とかいわれるような悲惨な事態は起きなかつたと思いますね」

「備後表」と呼ばれる広島県福山市周辺の畠表。農家の経営規模は50アールから70アール。八代の20分の1以下しかない。八代産の3倍以上の価格で取り引きされる。一枚3500円ぐらいにならうか。

「備後表」のい草農家は、10アール500枚作つたとして、その値段で売れば、10アール当たり175万円の粗収入がある。経費を引けば90万円近くになる。50アールでも400万円以上の手取りになる。小面積故、設備投資も少ない。両産地をよく知る畠表を扱う業者は、八代のい草農民にこんな印象を語っていた。

「彼らは誤解していましたね。強い